

# William Kentridge

## What We See & What We Know

Thinking About History While Walking, and Thus the Drawings Began to Move  
The National Museum of Modern Art, Kyoto September 4-October 18, 2009

### ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える

そしてドローイングは動き始めた……  
2009年9月4日(金)～10月18日(日)

休館日：毎週月曜日 ※ただし9月21日(月・祝)と10月12日(月・祝)は開館、10月13日(火)は休館  
開館時間＝午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時まで開館。入館は閉館の30分前まで)

観覧料：一般 850(700/600)円、大学生 450(350/250)円 ※( )内は前売り/20名以上の団体料金の順。※高校生および18歳未満、心身に障害のある方と付添者1名は無料(入館の際に証明

できるものをご提示ください) ※前売券の主な取り扱い：チケットぴあ・ファミリー・マート(レコード: 688-804)、ローソンチケット(レコード: 53465)、ほか主要プレイガイド、コンビニエンスストアなど

(岡崎公園内) 主催：京都国立近代美術館、東京国立近代美術館 後援：南アフリカ共和国大使館

テレホンサービス(展覧会のご案内)=075-761-9900 ホームページ=<http://www.momak.go.jp>

展覧会のお問い合わせ=京都国立近代美術館 〒606-8344 京都市左京区岡崎内藤寺町 電話:075-761-4111

### 京都国立近代美術館

Learning from the Absurd

Against Certainty

In Praise of Doubt

Thick Time

Visible Time

Fragile Identities

Seeing Double

Everyone Their Own Projector

Thinking Aloud

This Disease of Urbanity

It's difficult to know what the films are going to be like because they are made over such a long period of time. So I keep on thinking I'm going to make a comedy, but then when I'm finished and my friends watch the films, they tell me they are not comedy. I'm still waiting to make one.

私は既に長期にわたって制作してきたので、個別の作品が何を目指したのかはもはや所感ではありません。ただ言えるのは、私はいつもコメディを作ろうと考え続けていることです。そう思って作っても、出来上がった作品を見た友人たちからは、これはコメディではないと言われます。ですから私は今でも、いつかコメディができるのを待ち続けています。



Now what are the links between what is inside us, and what is outside? How much do we need from the outside world, for us to understand? And how much of the outside world is lodged in us already? Even as part of us prepares to leave, there are emissaries from the world lodged immutably within us.

さて、私たちの中にいるものと、外にあるもののとの連関は一体何でしょう。私たちの理解のために、外の世界のものをどれほど必要としているのでしょうか？そして外の世界はどれほど私たちの中に既に埋め込まれているのでしょうか？私たちの一部が出来る支えをしている傍らで、世界からの使者たちが離れて私たちの中に入り込んでいるのです。

How much do we need to understand or know of the world, to understand? How much of an object do we need in order to complete what is there? Is it about a generous viewing? Or an irresistible urge to make sense? One sees a series of abstract black shapes, and one will force them into a meaning of oneself. So that even as one tries to say, no, it's a series of sheets of black paper, that are being torn and manipulated, one cannot stop oneself seeing a figure, a shape, a horse, a form.

世界を理解する、あるいは知る必要、理解そのものの必要はそれほどあるのでしょうか？事物の存在を認識するためには、その事物の何割くらいが必要なのでしょうか？それは惜しみなく見るということでしょうか？それとも意味を成立させとする抗し難い欲求でしょうか？人は一連の抽象的な黒い形態を見ると、その意味を強引に見出しますいや、これらは千切られ揺らぎながら黒い紙にすぎない、と考えようとしても、どうしてもそれは、人の姿、何かの形、馬などの形態に見えてしまうのです。

①



②



③



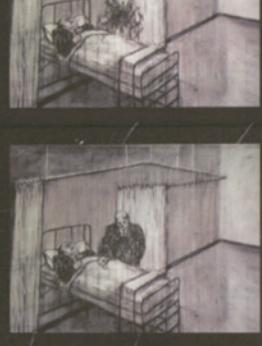
④



⑤



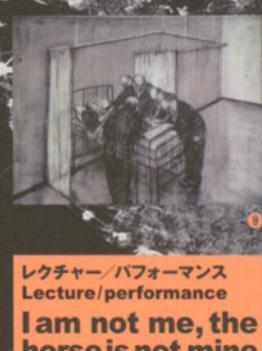
⑥



⑦



⑧



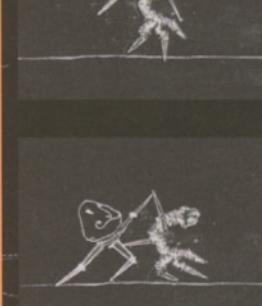
⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲



⑳



㉑



㉒



㉓



㉔



㉕



㉖



㉗



㉘



㉙



㉚



㉛



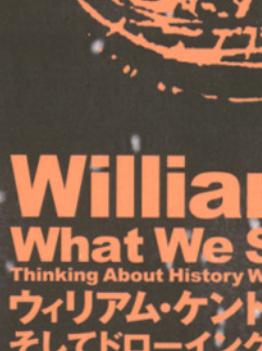
㉜



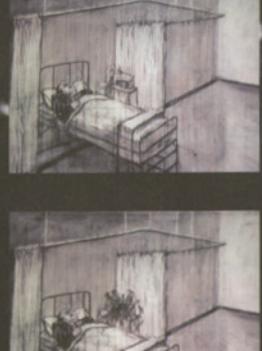
㉝



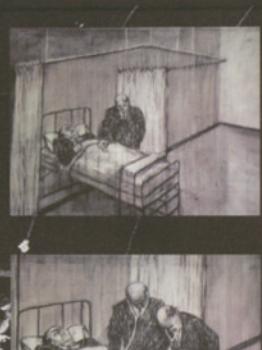
㉞



㉟



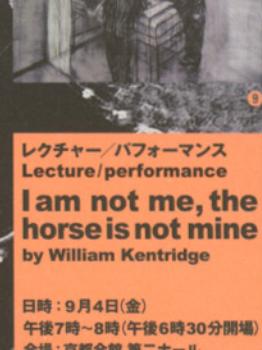
㉟



㉟



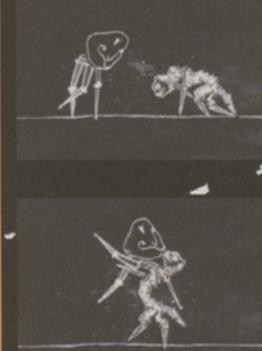
㉟



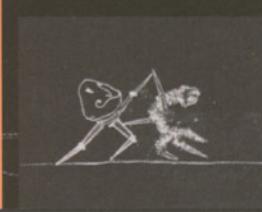
㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



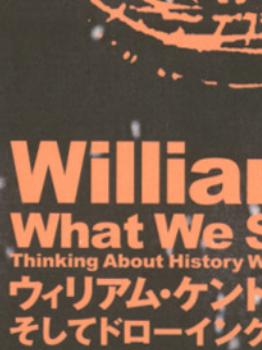
㉟



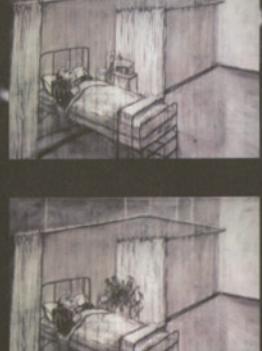
㉟



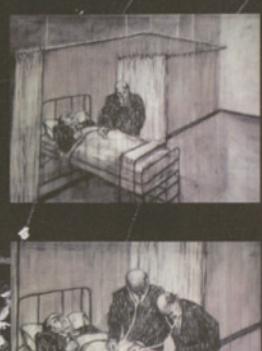
㉟



㉟



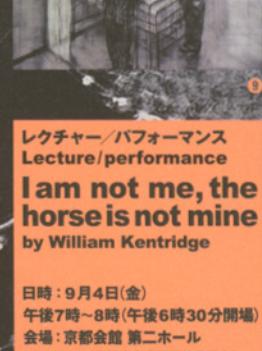
㉟



㉟



㉟



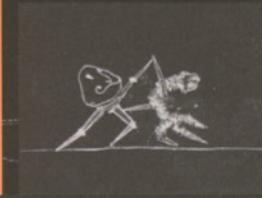
㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



㉟



ウィリアム・ケントリッジ(1955 南アフリカ共和国生、ヨハネスブルグ在住)は、1980年代末から、「動くドローイング」とも呼べるアニメーション・フィルムを制作しています。木炭とバステルで描いたドローイングを部分的に書き直しながら、その変化を1コマ毎に撮影する気の遠くなる作業により、絶えず流動し変化するドローイングを記録することで生まれる彼の作品は、独特的物語性と共に集積された行為と時間を感じさせる重厚な表現となっています。ケントリッジの作品は南アフリカの歴史と社会状況を色濃く反映しており、自国のアパルトヘイトの歴史を痛みと共に語る初期作品は、脱西欧中心主義を訴えるポストコロニアル批評と共に鳴る美術的実践として、1995年のヨハネスブルグ・ビエンナーレや1997年のドクメンタ10などを契機に世界中から大きな注目を集めるようになりました。しかし私たちは、その政治的外見の奥で、状況に抗する個人の善意と挫折、庇護と抑圧の両義性、分断された自我とその再統合の不可能性などの近代の人間が直面してきた普遍的な問題を、彼の作品が執拗に検証し語り続けていることに注目すべきでしょう。「石器時代の映画制作」と自称する素朴な制作技法に固執しながら、ケントリッジは近代の物語生成の原点を、そしてヨーロッパ植民地主義の病理の原点を作品を通じて探求しているのです。精緻なセル画アニメやCGが主流である現代のアニメーション制作の状況の中で、ケントリッジの素朴な技法は対極に位置していますが、強靭な知性に支えられた力強い表現は、ドローイングのコマ掘りアニメーションが未だに有力な表現手法となり得ることを証明しており、1990年代中頃からその作品は、世界中の若い世代の美術家たちに大きな影響を与え続けています。今回の展覧会は、京都国立近代美術館とウィリアム・ケントリッジとの3年間にわたる緊密な協同作業を経て実現されるもので、日本では初の大規模な個展となります。南アフリカの歴史を扱った初期の代表作《ソーホー・エクスタインの連作》(1989-2003)から、ショスタコヴィチのオペラ「鼻」を題材にした最新作の《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》(2008)まで、フィルム・インスタレーション3点を含む19点の映像作品と、36点の素描、64点の版画により、ウィリアム・ケントリッジという私たちの同時代の美術家の作品とその知的挑戦の全体像を紹介します。

Prayers of Apology

(FOR) GIVE

In Praise of Shadows

Smoke, Ashes, Fable

Middle-Aged Love

L'inesorabile avanzata

News from Nowhere

Panic Picnic

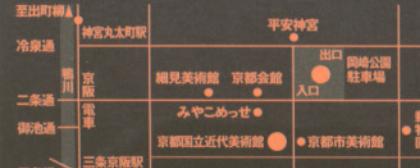
Casspirs Full of Love

Backwards and Forwards

The End of Understanding

Bodies in the Landscape

Drawings for Projection



[交通]

- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5岩倉行「京都会館美術館前」下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100(急行)銀閣寺行「京都会館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5岩倉行「京都会館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46平安神宮行「京都会館美術館前」下車すぐ
- 市バス他系統「東山二条」又は「京都会館美術館前」下車徒歩約5分
- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約5分

\*お車でお越しの場合、岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

Shadow Procession 影の行進 1999

NFC所蔵作品選集 MoMAK Films @ Goethe  
2009年9月12日(土) 14:00-19:06 / フランス映画上映

●「巴里的暗黒街」(1932年、監督:モーリス・トゥールヌール) ●「巴里ー伯林」(1931年、監督:ジリアン・デュヴィヴィエ) ●「幕間」(1924年、監督:ルネ・クレール) ●「燈台守」(1929年、監督:シャン・ダレミヨン) ●全作品 35mm、日本語字幕付

会場=ドイツ文化センター(京都)京都市左京区吉田河原町19-3(川端通荒神橋上ル)

主催=京都国立近代美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター

お問い合わせ=京都国立近代美術館

電話:075-761-4111 ホームページ:<http://www.moma.k.go.jp>